

令和元年度 第4回神戸市学校給食委員会 中学校給食部会

議事要旨

1. 会議の概要

- (1) 開催日時 令和元年11月1日(金) 10:00 ~ 11:30
- (2) 開催場所 神戸市総合教育センター6階601号室
- (3) 出席者 植村委員、西村委員、小林委員、清水委員、野間委員、山本委員、
荒牧委員、柳田校長(白井委員代理)

2. 議事

- (1) 中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費について
(必要経費のシミュレーション)
- (2) 中学校給食における牛乳の提供について

3. 議事要旨

中学校給食に関するアンケートの結果に基づき、中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)とその必要経費について、および中学校給食における牛乳の提供について事務局より報告し、それぞれの議題に対し、西村部会長の進行により各委員に意見をいただいた。

※西村委員は「神戸市学校給食委員会実施要綱」に基づき、第2回に部会長へ指名

議事1 中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費について (必要経費のシミュレーション)

- (資料3)中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費・(資料4)中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費のシミュレーションについて事務局より説明。
- 主な質疑は次のとおり。

(事務局) 前回の第3回会議では、アンケート結果を受けて、中学校給食の魅力化に向けて何ができるのかについて、他都市事例や課題等も含めて「中学校給食の魅力化に向けた検討項目(案)」として説明した。前回会議の議論を踏まえ、モデルケースとして具体的なシミュレーションを行った。

資料3「中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費」では、項目ごとに1食あたりに換算した必要経費を計上している。資料4「中学校給食の魅力化に向けた給食内容の充実(案)と必要経費のシミュレーション」では、資料3の各項目の組み合わせにより、現行の1食あたりの給食費300円を基準として、+20円~+100円までの6案をモデルケースとしてシミュレーションを行った。いずれの案もモデルケースとしてシミュレーションしたものであり、実際の献立作成にあたっては、前回会議に委員からご指摘があったように、塩分量や糖分量が過多にならないよう栄養バランスにも十分配慮を行ったうえで給食の提供を行うことになる。それぞれの案については、給食内容の充実とそのために必要な経費のバランスを見ていただくためのシミュレーションとして捉えていた

だきたい。

- ・パンやナンの新規提供の試算の考え方を確認したい。現在、提供している米飯の価格に単純にプラスした金額なのか、それとも米飯の金額を差し引いて、純粋にパンやナンの費用だけを計上しているのか。

(事務局) 後者である。米飯の1食あたりの金額である約36円を差し引いて、パンの1食あたりの単価を約90円として試算した。実際の提供にあたっては、パン事業者との調整が必要であり、加工賃や配送料など不確定要素もある。

- ・前回会議で食材費が高騰しているとの意見があった。物価上昇への対応を加味した案④以降のシミュレーションが妥当と考える。
- ・食材の価格上昇の状況を見ても、案④以降の価格上昇への対応を踏まえた考え方は妥当である。物価上昇の影響が食材費を圧迫しており、給食費の改定は必要と考える。
- ・パン食は食育の観点からも重要だと考える。案③～⑤あたりが妥当ではないか。
- ・神戸市は港町として古くからヨーロッパに開かれており、パン食が馴染んでいる。
- ・案④以降が良いと思うが、月額1,000円の給食費の上昇について保護者としてどう受け止めるか気になる。月に数百円の上昇であれば、そこまでの負担感を感じないのかもしれないが、1,000円となるとやはり負担だと感じるかもしれない。内容が魅力化するのであれば、月に1,000円あがっても納得できるのか。負担感が理由でさらに利用率が下がれば、せっかくの魅力化のための取り組みが意味をなさないのではないか。
- ・子どものために給食内容が充実されるのであれば、月1,000円の上昇は納得できる範囲ではないか。シミュレーションで案①～⑥まで示していただいているが、例えば、生徒に人気のあるデザートは案⑥を採用し、別の項目は案④など、シミュレーション案をミックスすることも検討の余地がある。アンケートで希望の多かった項目を実現するためであれば、給食費の改定幅がある程度高くても納得できるのではないか。
- ・現在、生活保護・就学援助で給食費を補助していると聞いた。給食費の改定により、神戸市の負担も増えることになるが、対応できるのか。

(事務局) 制度として、就学援助の世帯、生活保護を受給されている世帯については、給食費の全額補助を行っている。予算編成の中での議論となるが、これまでの考え方のおり全額補助する形で対応したい。

- ・内容を充実させるために、コストが上がるのはやむを得ないと思うが、技術革新等もある中で、コストダウンしているというところも示さないといけないのではないか。
- ・ハード面の整備など、初期投資が必要なことでも効果があれば費用が発生しても市民の理解を得られるのではないか。

(事務局) 冒頭でご説明したとおり、例えば、保温カートの実験や親子方式の試行などハード的な部分について自治体としての努力も必要だと考えている。そもそも給食の実施にかかるコストについては、学校給食法の中で、食材費は保護者負担、ハード面等の費用は自治体の負担と定められており、給食費のシミュレーションについては食材費部分に該当する。

- ・他都市でも色々と工夫をしているようなので、参考資料の寝屋川市の例を事務局より紹介いただきたい。

(事務局) 寝屋川市では、平成25年より全12校、約6,000人の生徒と教員を対象に全員喫食としてデ

リバリーランチボックス方式で給食を開始したが、神戸市と同様、おかずが冷たいという課題があった。今年7月に実施したアンケート結果等を受け、11月より週2回、ハンバーグや唐揚げなどの主菜のみを食缶で配送する方式を取り入れると聞いている。

- ・寝屋川市の例は大変興味がある。温かくすると匂いが出て食欲も沸く。神戸市の規模で実現可能か不明だが、検討していただきたい。配膳等の時間について、中学生にとって昼休みは体を動かさず貴重な時間。給食を食べる時間とのバランスをとることが理想。学校現場の実態も踏まえて今後の方針を検討いただきたい。
- ・給食費は、まとまった金額を1度に支払うことになる。保護者によっては1年間の給食費をまとめて支払う方もいるため、月に1,000円以上の改定は負担感を感じるのではないかと。学校現場では、学校物品を少しでも安くするため努力しているような状況にある。改定幅は月1,000円以内に抑えたい。
- ・1食100円の改定は抵抗感を感じる保護者はいると思う。給食費を改定するならば、その分、これだけ良くなると具体的に保護者に示す必要がある。レトルトは生徒に人気があり、回数が増えるのは良い。
- ・寝屋川市の例は興味深い。全員喫食が前提である。給食を食べている生徒と食べていない生徒が混在している今の状況では配膳等の対応が難しいと思うが、おかずの量の調整もできるので、案として良いと思う。
- ・案③～④あたりが妥当だと思う。

議事2 中学校給食における牛乳の提供について

→(資料5) 中学校給食における牛乳の提供について・(資料6) 牛乳の選択の有無による1食単価・月額費用について事務局より説明。

→主な質疑は次のとおり。

(事務局) 中学生の時期は嗜好も含め個人差が大きくなるため、給食における牛乳の提供を希望制にするか、また家庭弁当の生徒も牛乳の注文を可能とするのが論点になる。厚生労働省の「日本人の食事摂取基準(2015年版)」では、12～14歳の中学生の時期に最もカルシウムが必要とされており、文部科学省の「学校給食摂取基準(2018年8月)」では、「日本人の食事摂取基準」の推奨量の50%を中学校給食の1食あたりの基準値とされている。給食の牛乳1パック200mlのうち、カルシウムは227mgあり、給食で提供するカルシウムの基準値の約半分を牛乳で補っている状況にある。農林水産省のホームページに記載があるように、牛乳以外にもカルシウムを多く含んだ食品はあるが、牛乳は他の食品に比べてカルシウムの吸収率が高い。また、給食の献立として提供できるものにも限界があるため、家庭での食事も含めて中学生の適切な栄養量の摂取を図っていく必要があると考えている。10代の時期に十分なカルシウムを摂取することの必要性について家庭に情報提供を行っていく必要がある。

- ・給食の牛乳が選択制になれば、その分のカルシウムを他の献立で補うことになるのか。
(事務局) 学校給食摂取基準のカルシウム量の半分を牛乳で補っている状況であり、その分を他の献立で補うことは難しい。その分、家庭で補っていただくことになる。
- ・これから冬場になると、多量の牛乳が残る。牛乳の飲用は希望制にした方がよい。
- ・給食で牛乳を飲まない場合、家庭でのカルシウム摂取が必要となる。各家庭に対する働きかけが必要と思う。

- ・家庭弁当の子も牛乳を給食で飲めるようになることが良い。
- ・牛乳を飲まなくてもいいということになれば、神戸市としてカルシウムの摂取量が不足していても良いと認めることになる。何か特別な理由がある場合のみ、牛乳を提供しないというような運用はできないのか。

(事務局) ご指摘のとおり、本来は牛乳もセットでの完全給食である。現在もアレルギー等の理由がある生徒については、理由書を提出していただいたうえで、給食の牛乳を提供していない。牛乳の希望制は、その運用をより柔軟にするという話である。ご指摘の懸念はあり、牛乳が希望制となっても、牛乳を飲んでいただくのが本来であるという説明は必要であると考えている。

- ・家庭弁当の生徒が牛乳だけ単品で注文することは可能なのか。
- (事務局) 可能と考えている。過去、神戸市でもミルク給食を実施しており、3割を越える利用があったと思う。牛乳が選択制になることで運用面での学校の協力も必要となる。特に今よりも注文のパターンが増えることで、学校側に混乱は生じないか確認したい。- ・ミルク給食を実施していた時は牛乳だけで管理していたが、今はランチボックスがあるので、牛乳とランチボックスで生徒の担当を別々にするなど工夫をすれば、学校側も対応は可能だと思う。
- ・学校給食の主役は子どもたちであり、神戸の未来を担う中学生の成長という大きな役目を中学校給食は背負っている。スピード感をもって中学校給食の魅力化を行うことが必要である。
- ・これまでの部会での議論を総会の場で報告し、神戸市学校給食委員会の意見として集約したい。